

第3回日田彦山線復旧会議

2019年3月15日

目次

○これまでの復旧会議検討会からの報告 (P.1～P.10)

- ・継続的な運行の確保を実現するための様々な知恵出しの状況について
- ・代行バスアンケートの調査報告

○日田彦山線の復旧について (P.11～P.12)

利用促進策の収支改善効果について

普段使い

- ・デマンドタクシーの新設(日田市)
大鶴地区にデマンドタクシーを
運行し、列車との接続を改善して、
JR利用者数の増加を図る

・JR利用者数 年間2,974人増加

- ・大鶴駅～夜明、今山～夜明で利用者数を案分

【増収効果】 775,880円 / 年
(自治体・JR九州共通)

イベント(期間型)

- ・トレイルランニング、フットパス等の
モデルコースの確立(東峰村)
美しい景観を活用したコースを
策定し、イベントを実施することで
JR利用者数の増加を図る。

・JR利用者数 自治体試算 年間 1,000人増加
JR九州試算 年間 396人増加

- ・添田～大行司、大行司～夜明で利用者数を案分

【増収効果】 自治体試算 722,300円 / 年
JR九州試算 285,900円 / 年

観光振興(通年型)

- ・英彦山を核とした観光振興(添田町)
修験道と野遊びの体験型商品の
提供と宿泊者への割引を行うことで
JR利用者数の増加を図る。

・JR利用者数 自治体試算 年間 14,100人増加
JR九州試算 年間 570人増加

- ・添田～彦山、彦山～夜明で利用者数を案分

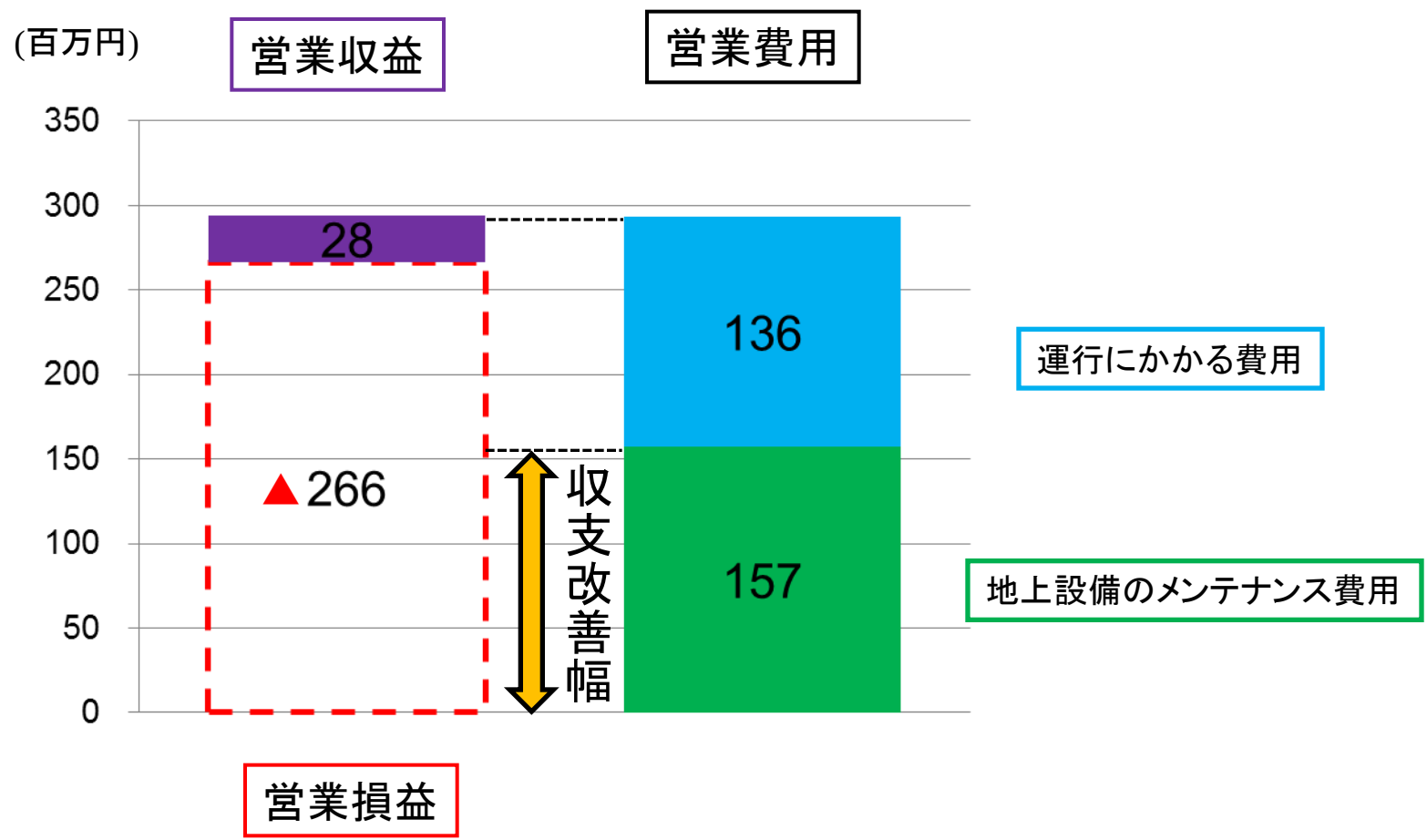
【増収効果】 自治体試算 8,165,920円 / 年
JR九州試算 330,280円 / 年

利用促進策の収支改善効果について

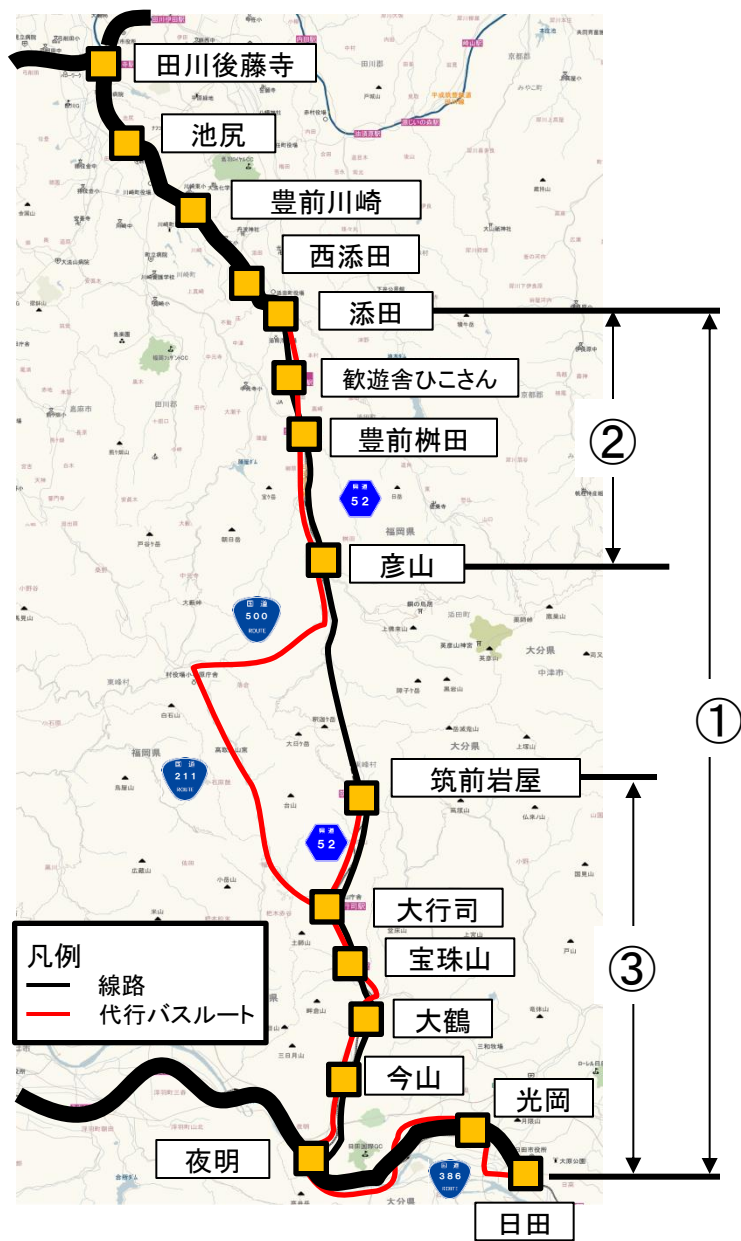
利用促進の カテゴリー	増収効果（千円/年）	
	自治体試算	JR九州試算
普段使い	859	776
イベント （期間型）	7, 920	2, 634
観光振興 （通年型）	16, 429	402
合計	25, 208	3, 812

日田彦山線(添田～夜明)の収支改善の目標額について

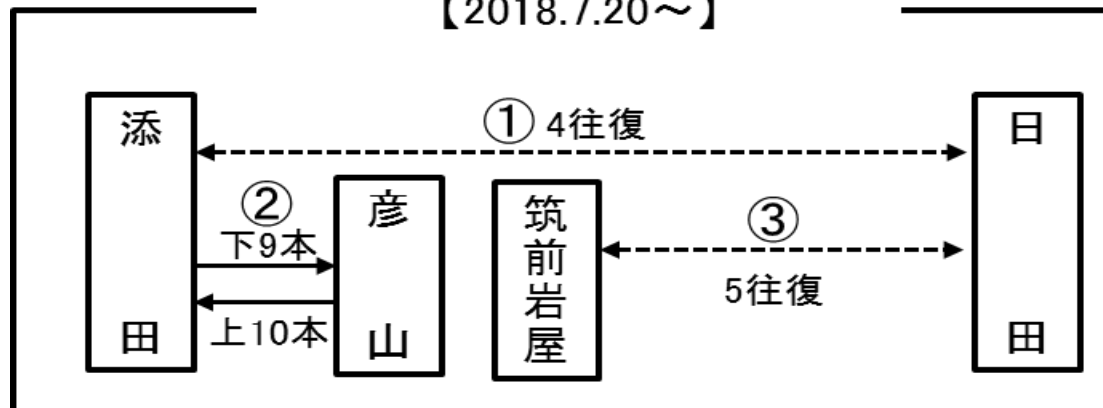
2016年度日田彦山線(添田～夜明)収支状況



代行バスの運行ルート



【2018.7.20～】



バスの種類



車種 マイクロバス



車種 ジャンボタクシー



車種 中型バス

運行区間	車種	定員	運行会社
①	マイクロバス	18名 or 28名	(有)藤山観光
②	ジャンボタクシー	9名	田川構内自動車(株)
③	中型バス マイクロバス	55名 18名 or 28名	西鉄バス久留米(株) (有)藤山観光

車内アンケートの実施概要について

目的

日田彦山線代行バスの運行が長期間に及んでいることから、ご利用のお客さまのご意見・ご要望を把握し、代行バスを運行する上での参考とするため

アンケート概要

実施期間 2018年12月5日（水）終日

実施方法 全ての代行バスに係員が乗車し、ご利用のお客さまにアンケート用紙を配布し、記入していただき、降車時に用紙を回収

車内アンケートの調査結果について

代行バスアンケート結果(全便でアンケート実施)

乗車者数	72	回答者数	67
		未回答	5

図1 職業別ご利用者数

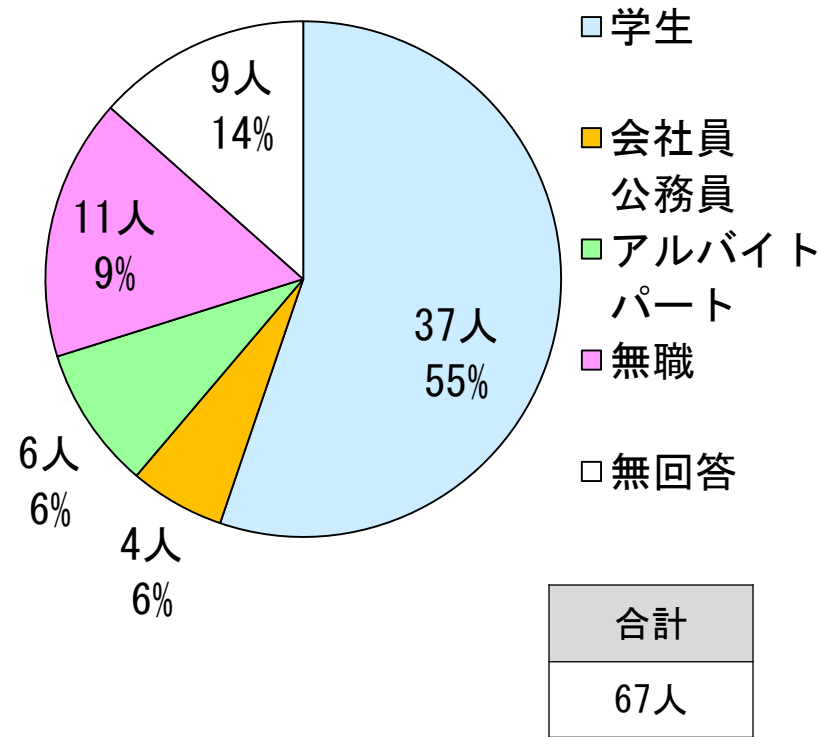
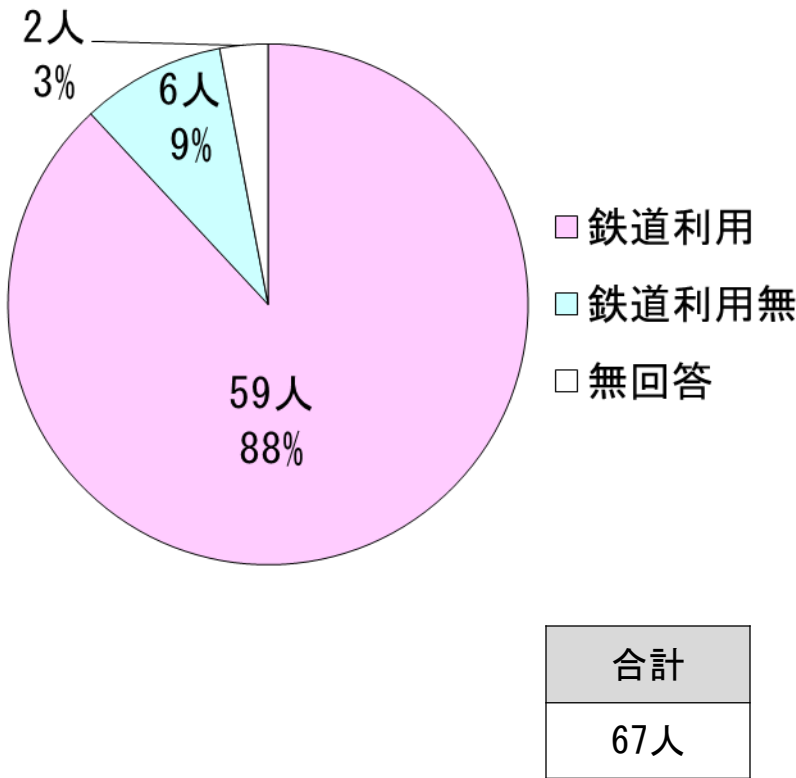


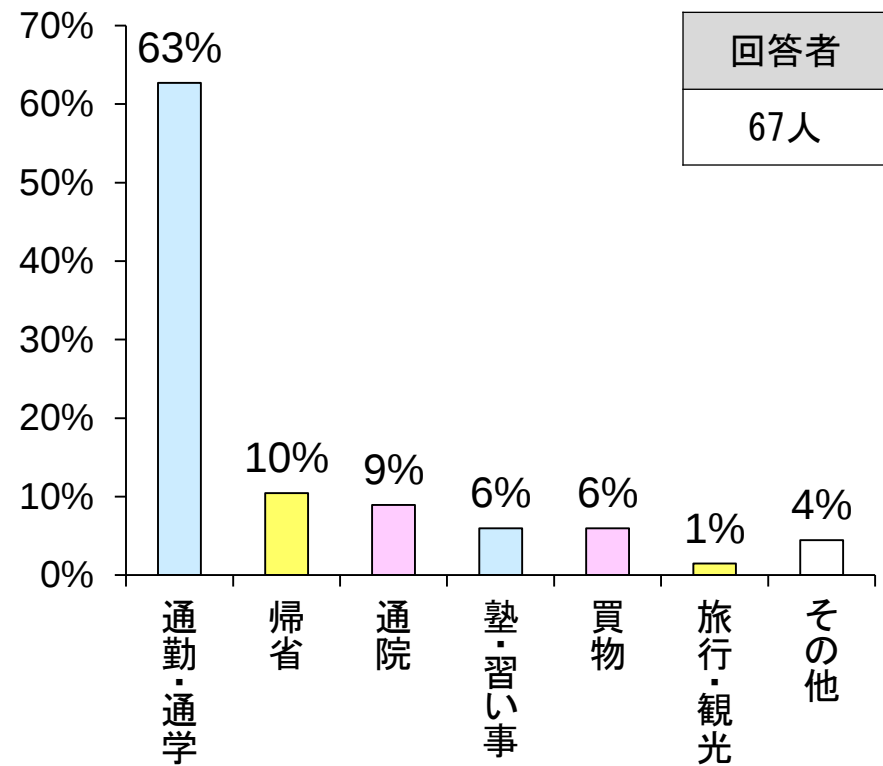
図2 被災前、鉄道を利用していた
ご利用者数



車内アンケートの調査結果について

代行バスアンケート結果

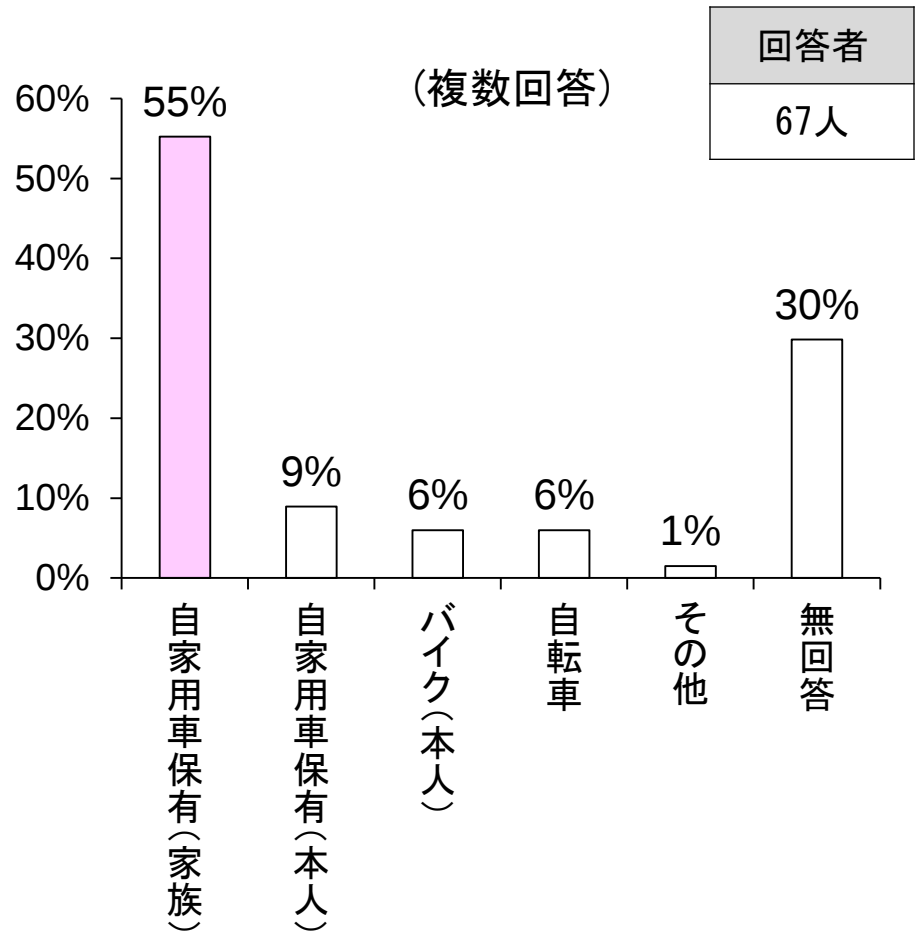
図3 利用目的について



凡例

- 日常でのご利用(買い物・通院)
- 日常でのご利用(通勤・通学・塾・習い事)
- 旅行・観光・帰省・出張等
- その他・無回答

図4 自家用車等の保有



自治会アンケートの概要について

目的

日田彦山線代行バスの運行が長期間に及んでいることから、ご利用のお客さまのご意見・ご要望を把握し、代行バスを運行する上での参考とするため

自治会アンケート概要

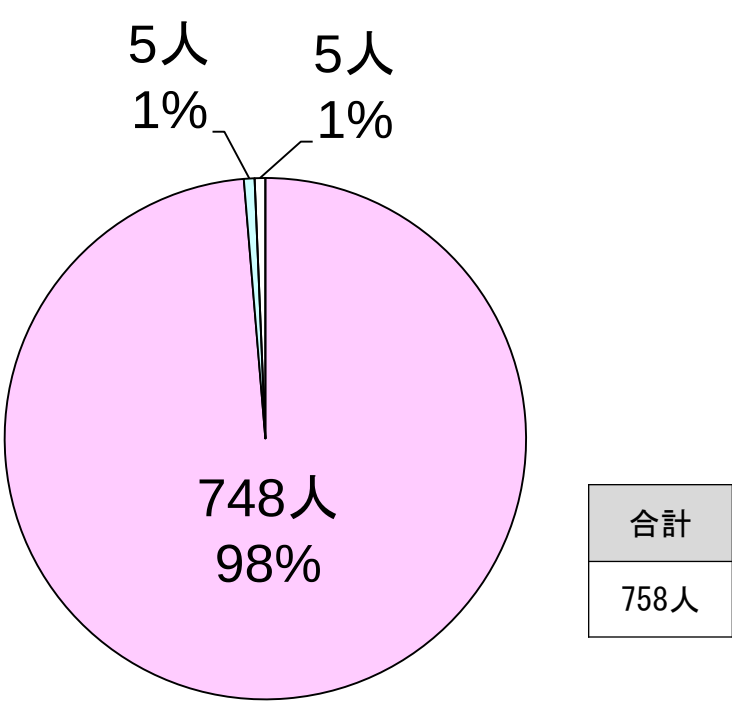
実施期間 2018年12月14日～2019年 1 月31日

実施方法 各自治会にて配付(2,400世帯※へ配付)
回答後、返信用封筒にてＪＲ九州へ郵送
※調査対象世帯は、市町村により選定

自治会アンケート最終報告～代行バスの認知度及びご利用状況～

図5 代行バスの認知度

■知っている ■知らない □無回答

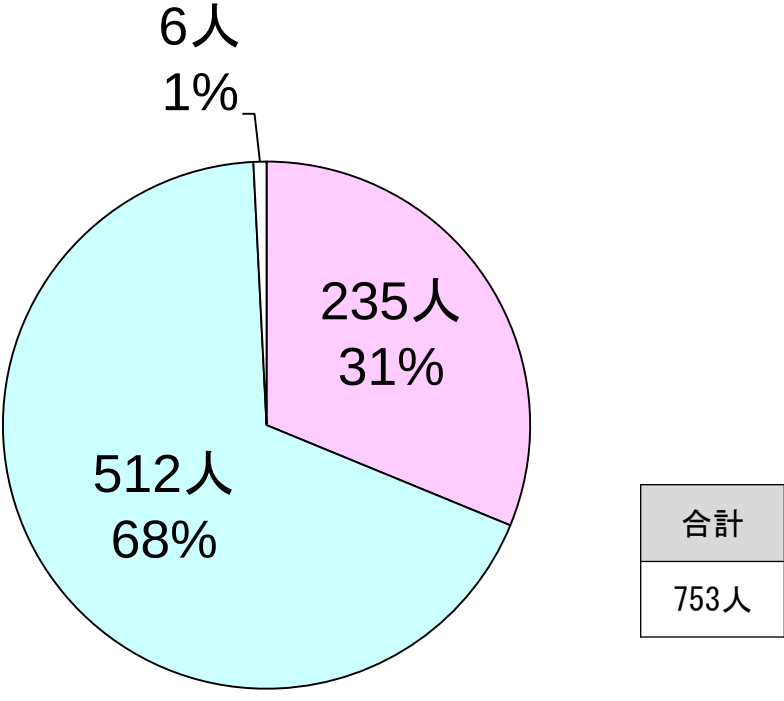


全回答者を対象

回答者の98%が、
代行バスを知っている

図6 代行バスの利用状況

■利用する ■利用したことがない □無回答



代行バスを知っている
回答者が対象

約7割が、
利用したことがない

自治会アンケート最終報告～代行バスの利用目的～

図6 代行バスのご利用状況

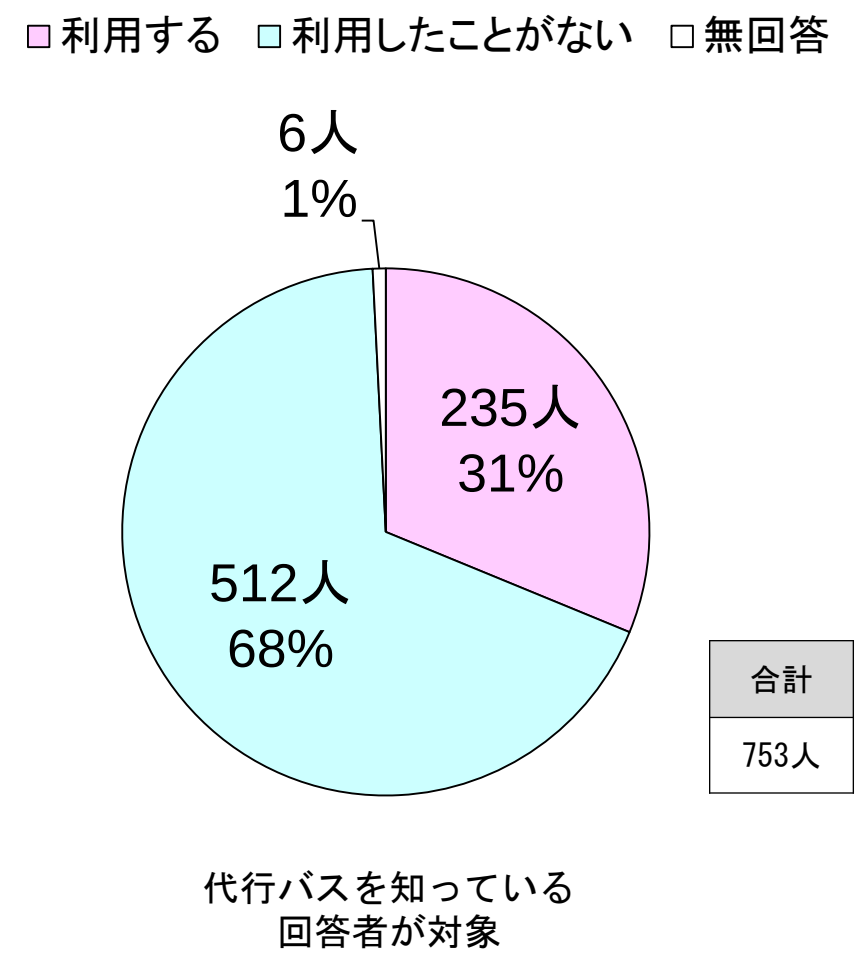
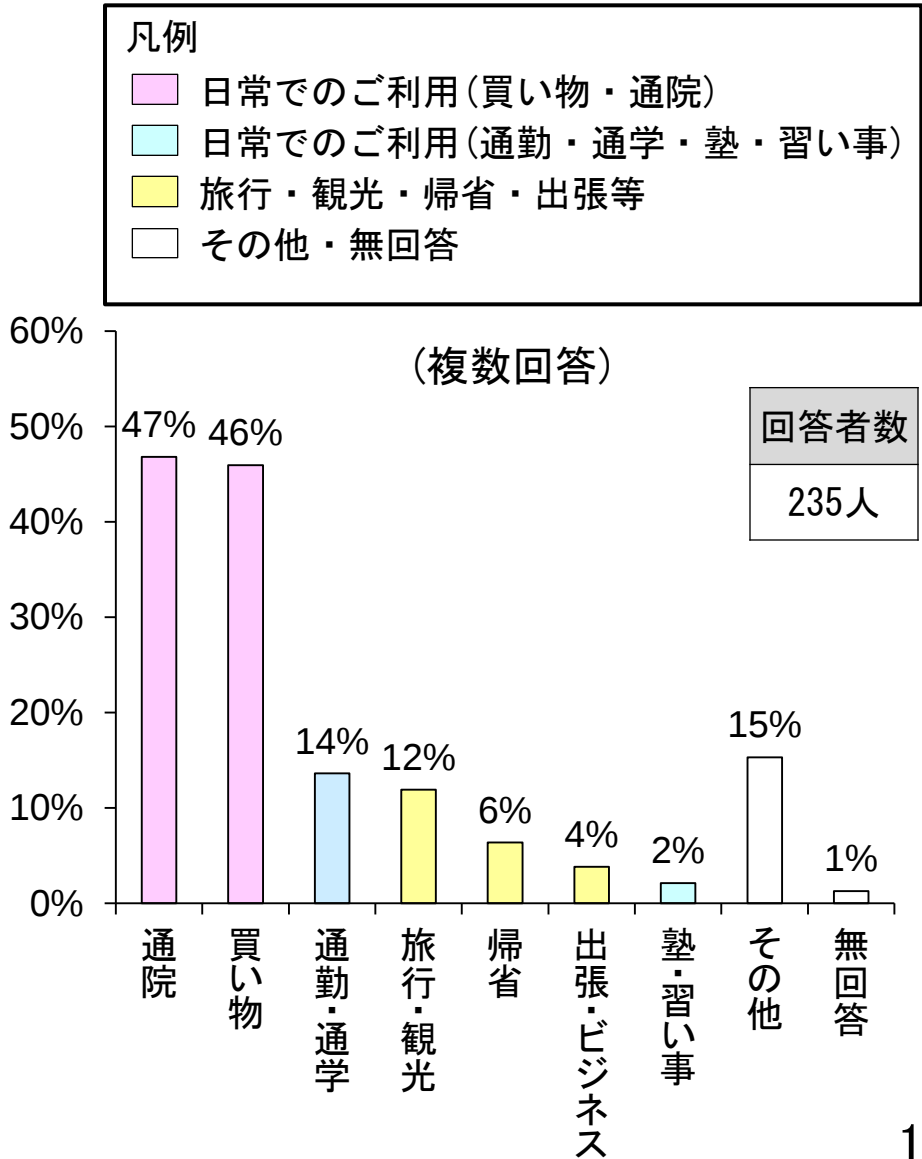


図7 利用目的について



第4回検討会までに議論したこと

○鉄道で復旧するための方策に関する検討

- ・ 復旧費は、災害復旧に係る事業との調整により、約56億円まで低減した
- ・ 鉄道軌道整備法の活用を前提とすることとした

○継続的な運行の確保に関する検討

- ・ 被災前の収支状況が▲2.66億円であることが示された
- ・ 利用促進策による収支改善効果の見込み額が、自治体試算で25,208千円
JR九州試算で3,812千円であることを確認した

検討会からの課題とまとめ

○残された課題と考え方

継続的な運行の確保に関する検討

- ・ J R九州としては、鉄道での復旧と継続的な運行の確保のためには、利用促進策と運行支援による1.6億円の収支改善が欠かせない
- ・ 自治体側としては、利用促進策を提案しており、J R九州が運行支援を求めることについて納得できず、再考を求めたい

○復旧会議としての1年間のまとめ